

園長先生の子育てひろば

令和7年12月

1年の終わりに

園長 堀田あけみ

12月がやってきました。何かと物入りな子育てですが、この時期はクリスマスとお正月に帰省や旅行が重なって大変です。でも、大人もうきうきしますよね。子どもの成長は折に触れて感じられるものですが、サンタさんをお願いするプレゼントが、ちょっとお兄さんお姉さんになったなあ、なんて感じるかもしれません。

幼稚園にもサンタさんがやってきますし、それぞれのご家庭でも、様々な工夫をされていると思います。学生と話していても、この季節は何歳までサンタさんを信じていたかの話題になります。ご家族が、サンタさんを信じてもらうために、どんな工夫をされているかも、いろいろ教えてもらいました。庭に大きな足跡をつけたり、雪が降ったから橇の跡をつけたり。サンタさんのお夜食を用意して、夜のうちになくなってるから来たんだよ、というのもありますね。

我が家でも夫から訊かれました。いつ白状するの？ 私の答えは、できる限り頑張る、でした。放っておいても、大きくなったら友達から情報が入るので、親から教えることはしない、高学年以上になったら、確認されたときには、「実は親でした」と答えます、と。でも、確認されることなく、いつの間にか「あの頃は信じてたよね」と思い出話になっていました。

子育ては、日々の戦いで、嬉しいことも困ることも次々とやってきます。子どもの成長は、いつの間にかとか、気がついたらになりがちです。家族が集まることの多い年末年始に、この一年の成長をじっくり振り返ってみるのもよいかもしれません。何ができるようになったのか。目に見える能力だけでなく、お友達のことを思いやれるようになったとか、思い通りにならないときでも我慢できるようになったとか、そんな成長も見逃さないで。そして新しい年のことも考えてみましょう。クリスマスプレゼントもお年玉も、待っていたら降ってくるものではなくて、頑張ったことへのご褒美だってことにした方が、嬉しさも大きくなりそうです。

サンタさんから愛情深いプレゼントをもらった子は、いつかきっと誰かの素敵なサンタさんに成長します。ここ数年の我が家のクリスマス、プレゼントをもらうのは私です。